

青年海外 協力隊員 レポート

モンゴル国
Mongolia

お互いの価値観や文化を尊重し、直接触れ合いながら、その国の抱える問題を解決し、経済や社会の発展に貢献することを目的に活動する青年海外協力隊。その一員として、平成20年1月から2年間、モンゴル国に体育教師として赴任していた岩田紗知さん（北川原）が、任務を終え帰国されました。

「ガンツォグト先生、見なかった？」
初めのころの体育の授業前は、いつも同僚の先生を探して学校内を走り回っていました。
平成20年1月から青年海外協力隊員としてモンゴルに派遣され、首都ウランバートルから約400キロメートル離れたボルガン県の第一学校で体育の先生として配属されました。

先生も一緒に、寒いモンゴルでも汗を流して授業を楽しんでいました。そのうち、子どもたちも走って授業に來たり、先生も授業前に準備していたりと変化が見られるようになりました。
また、モンゴルでは発表会などの場合は、成績がいい子どもしか出られません。そこで全員が参加できる運動会を企画しました。冬は日中でもマイナス25度になるモンゴルで楽しめるよう、体育館でも実施しました。チームプレイが苦手なモンゴル人も、みんなで力を合わせて挑んでいました。競技だ

けでなく組体操や、「よさこい」も発表しました。今までにない運動会を、わたしが帰った後も続けてくれると約束して帰りました。
モンゴルでは、家に誘ってくれる同僚や生徒に、精神的に助けられました。そして、最低限のモノで最大限の生活をしていることや、家の仕事を手伝う子どもの姿を、見習うべきだと思いました。
この2年間で日本では体験できないことを十分に学べたので、これからこの体験を還元していきたいと思っています。

最低限のモノで 最大限の生活 仕事を手伝う子どもの姿

● profile

岩田 紗知 さん (28歳)
Sachi Iwata



幼い頃から岡田で育ち、大阪教育大学卒業後、愛媛県内の高校で2年間講師として働き、その後青年海外協力隊に参加。

